

[講演要旨]

歴史地震総表について

宇佐美龍夫(東京大学名誉教授)・石井 寿\*(株歴史地震情報)

わが国における歴史地震の史料集としては下記のものがある。

- 田山 實:大日本地震史料
- 武者 金吉:増訂大日本地震史料
- 地震研究所編:「新収日本地震史料」第一巻～第六巻, 同補遺・補遺別巻, 等
- 宇佐美龍夫:「日本の歴史地震史料」拾遺, 同別巻, 拾遺二～五上下

歴史地震を調査・研究するにはこれらの史料集が参照されることが多いが, これらの史料集はほぼ時系列, あるいは被害地震毎に整理されており, 新たな歴史地震の史料を見出した際, 既往の史料集を参照して調査するのは煩雑, 困難であった。

被害が顕著な歴史地震について, その概要は「日本被害地震総覧」に, その原史料は上記の新収の別巻等に整理されているが, 上記の史料集では地震発生の日時のみを記載されている史料も多数見られる。これらの記述も歴史地震発生の時空間分布の把握には不可欠の重要な史料である。かかる観点から宇佐美は有史以来明治 5 年に至る期間に発生した地震について, 歴史地震のカタログを作成した。有感地域が広域にわたる地震については新たに震度分布図を作成し, 添付した。また拾遺五の刊行以降も歴史地震の史料収集は継続されており, その成果も反映されている。

歴史地震総表は本表・余震表の 2 部構成となっており, 余震の史料が豊富な下記の地震については, 別表として整理した。

宇佐美によれば歴史地震に関わる疑問・問題点が下記のように指摘されている。

- ① 下妻の資料によると弘化 3 年の暮から急に地震が頻発し, 善光寺地震が発生すると収まってくる。これは筑波山付近の地震と思はれるが, 善光寺地震との関係は謎である。
- ② 天保時代は東北地方に地震活動が活発化した。福島県沖や会津地方に頻発した様子が伺える。これは余震か頻発地震か, 精査する必要があるだろう。
- ③ 頻発地震は各地で発生している。しかし京都市では明治以降に頻発地震が発生したという事を寡聞にして聞かない。どういう事なのだろう。
- ④ 近江八幡は関東方面の地震をよく記録している。本当なのだろうか? 近江八幡は震度の特異点なのだろうか。
- ⑤ 文政 11 年の三条地震の余震の記録が見つからないのは, 本当に余震が少なかったせいなのだろうか。
- ⑥ 慶應 3 年 5 月の深発? 地震は, かなり大きかったらしい。余震らしいものがいくつか見ついている。
- ⑦ 一つの地震についてみると, 一観測地点しか見つからない地震が多いのに気付く。これは新史料の収集の重要性を示唆しているものと考えたい。

上記の問題点の解明を踏まえ, 歴史地震の把握には史料収集が不可欠である。一方, 地方の博物館・史料館等では未整理の史料も山積しており, 継続して史料調査・収集を行う必要がある。総表はそうした成果を反映し, 適宜追加・修正を行う予定である。

		余震表 一覧							
No.	和暦			グレゴリオ暦			地震名	備考 (No.:総覧地震番号)	
	年号	年	月	日	年	月			日
1	寛政	5	1	7	1793	2	17	陸前・陸中	No.217
2	天保	1	7	2	1830	8	19	京都	No.236
3	弘化	3*	11*		1846*	11*		ソクバ頻発	*弘化4年3月(1847年3月)まで
4	弘化	4	3	24	1847	5	8	善光寺	No.248
5	嘉永	7	6	13	1854	7	9	伊賀上野	No.254
6	安政	1	11	4	1854	12	23	安政東南海	No.257,A表:注釈,B/C表:余震発生状況, D表:長く余震を記録している史料一覧
7	安政	2	10	2	1855	11	11	江戸	No.262
8	安政	3	7	23	1856	8	23	三陸沖	No.263
9	安政	5	2	26	1858	4	9	飛越	No.268
10	明治	5	2	6	1872	3	14	浜田	No.282